

事例報告「栃木県における学校飼育動物への取り組み方」

矢部眞人



栃木県では平成11年より県教育委員会と県獣医師会が連携して、学校で飼育されている動物達を、子供たちの教育にいかに活用してもらえるか、また学校において動物を飼う目的、意義について考えながら事業を行ってきた。

平成11年に佐野市をモデル地区に指定し、市内の13校の小学校に夏、冬の学校訪問指導ならびにくふれあい授業>を行い、高評価を得た。

その結果13年より県下8教育事務所で、1市町を選び同様な事業を展開した。

県教育委員会は、学校訪問については過去5年間の事業継続で一定の成果を挙げ役割を果たしたと考え、学校訪問で分かってきた教員の知識不足へ何らかの対応をしようということで、平成16年度は飼育担当教員を対象とした『小学校小動物飼育指導担当教員研修会』へと方向転換した。

今年度(17年度)も7月22日～8月18日に同研修会を開催した。

以下に現在までの経過報告をする。

<平成11年～12年>

- ・野市内13校の小学校で、訪問指導、生活科授業で「ふれあい授業」に参加
- ・県教委、佐野市と委託契約

<平成13年>

- ・佐野市、上三川町、鹿沼市、茂木町、野木町、矢板市、那須町、鳥山町の83校に訪問
- ・県教委、各市町と委託契約

<平成14年>

- ・鹿沼市、那須町、茂木町、大平町、氏家町、小川町、田沼町、南河内町の59校に訪問
- ・県教委、各市町と委託契約、佐野市とは独自契約で事業継続

<平成15年>

- ・鹿沼市、河内町、真岡市、小山市、高根沢町、大

田原市、馬頭町、足利市の75校に訪問

- ・前年同様委託契約、佐野市、氏家町、茂木町と独自委託契約

<平成16年>

- ・モデル事業から「小学校小動物飼育指導担当教員研修会」に変更、県内各小学校教員各1名430名の参加
- ・真岡市、茂木町、大田原市、小山市、佐野市、足利市、さくら市(氏家町と喜連川町が合併)と独自委託契約

1 栃木県内学校飼育動物の現状と課題を考える

栃木県獣医師会学校飼育動物対策委員会では平成15年度に、県内学校飼育動物の現状と今後の課題を知るべく、訪問した小学校の先生方を対象にアンケート調査を行い、平成16年9月の栃木県公衆衛生学会に発表した(別記「アンケートから見た県内学校飼育動物の現状と課題」参照)。

このアンケート調査では考察にもあるように、学校訪問、訪問指導は9割以上の学校で継続を希望していることが分かった。そして飼育動物を通して命の大切さを教えることの重要性が再認識され、そのためには、専門家の協力、正しい知識、適切な飼育が必要と理解された。中でも気になったのは、学校で飼育されている動物と触れ合えるかどうかの問い合わせに対し、設問の不備もあったが、学校の先生方と獣医師の間には理解に大きな差があることが分かった。獣医師は日常的に動物と触れ合えるか、抱けるかを質問していたのに対し、多くの先生方は強引な方法でも捕まえることが可能と答えていた。獣医師は、これは学校で動物を飼ううえでの、飼う意義という根本的な問題であると理解しており、獣医師にとって今後大きな課題となつた。

2 飼育指導担当教員向け研修会

平成16年より今までの県教委委託事業である「訪問指導・ふれあい授業」は、諸般の事情で『小学校小動物飼育指導担当教員研修事業』に変更となつた。理由としては、財政逼迫の折、少しでも経費削減を考える(160万円→100万円)。子供たちへの教育も大切であるが、担当教員への教育も大切である等が考えられた。

この研修会には全県15地区で427名の担当教員が参加し、獣医師会学校飼育動物対策委員会の編集による『子供を育てる学校動物』を参考に、ニワトリ、ウサギ、インコなどの飼育管理についての講義を1時間、ウサギを使って雌雄鑑別法、抱き方、聴診等の実習を1時間行った。

この研修会に関して、担当獣医師が出席数貞に対して行った質問、教員に聞いた感想、獣医師の感想を平成16年11月の『学校飼育動物に係るシンポジウム（今、心の教育に求められているもの）』にて発表した。

また、この事業に関して県教委も出席教員にアンケート調査をし、結果が公表された（別紙III参照）。両発表から共通の問題点が見られ、今後の指針になると思われた。

- ・担当教職員は飼育に関して不安を感じている方が多い。
- ・地域の獣医師との連携が大切（相談できる）。
- ・雌雄鑑別、飼育方法等、飼育管理の正しい知識が必要。
- ・触れて、抱いて、初めて愛着がわいた。
- ・この研修会は必要。継続すべき（事前に質問を用意する）。

これらの問題点を考慮し今後のこの事業を進展させる。

3 栃木県獣医師会学校飼育動物対策委員会活動の今後

我々委員会は、継続してきたこの事業をさらに充実させていくため、以下のこととに努力すべきである。

- ・園・学校との連携強化
- ・行政、関係各課との連携強化
- ・園・学校に対して飼育管理等の専門知識の供与
- ・学校獣医師の制度化を考える

・我々獣医師間の協力体制強化

【別記1】

アンケートから見た県内学校飼育動物の現状と課題
(社) 栃木県獣医師会

○伏見浩子 長谷川節子 矢部眞人 石飛雅代
佐藤かおり 小口昌宏 村井妙 鈴木昭宏 永沢
稔 小澤浩 飯塚豊

1 はじめに

栃木県獣医師会は、平成11年度から13年度の3年間、佐野市をモデル地区とした県の補助事業である「生きる力を育む学校作り事業」に協力し、学校飼育動物支援活動を行いました。始めの2年間の活動実績が評価され、この事業を全県下に広げたいとの要望が寄せられたため、平成13年度から15年度の3年間は、県内8地域に拡大され、同様に学校飼育動物支援活動を行いました。今回平成15年度実施小学校72校を対象にアンケート調査を行いましたので、その結果を報告します。

2 目的

県内の殆どの小学校で動物が飼われていますが、必ずしも良好な状態で飼育されているとはいえないでした。平成11年に始まったこの活動が広まるにつれ、少しづつではありますが動物たちの環境はよくなっています。独自契約を希望する自治体も増えてきました。そこで、現場の先生方から飼育動物に対する意見や要望を聞き、より効果的な活動をしていくためにアンケート調査をおこないました。

3 対象

県内8地域から毎年各1市町を選び、獣医師会各支部が1地域ずつを担当します。

	平成13年		平成14年		平成15年	
栃中	上三川町	7校	南河内町	5校	河内町	6校
上都賀	鹿沼市	5校	鹿沼市	13校	鹿沼市	11校
下都賀	野木町	5校	大平町	4校	小山市	11校
芳賀	茂木町	7校	茂木町	7校	真岡市	15校
塩谷	矢板市	12校	氏家町	5校	高根沢町	6校
那須	那須町	11校	那須町	11校	大田原市	13校
南那須	烏山町	7校	小川町	3校	馬頭町	8校
安佐・足利	佐野市	13校	田沼町	11校	足利市	2校

上記の他に、独自契約として、14年は佐野市13校、15年は佐野市13校、茂木町6校、氏家町5校があります。県内427校中173校を訪問したことになります。

4 活動の内容

(1) 巡回訪問指導

夏休み前及び冬休み前の年2回獣医師が直接小学校を訪問し、飼育舎や飼育状況の観察をする。問題点を指摘し、先生方や児童の質問に答え飼育活動をサポートします。

(2) ふれあい授業

1、2年生を対象に生活科の授業の一環として、担

任の先生と連携してTT形式で行う。

まず、うさぎの特徴や飼い方等をOHPで説明。次に実際にうさぎを使って、抱き方の練習や、聴診器を使って心音を聞く等、うさぎの暖かさ、柔らかさの感触を通じて、生き物と触れ合うことの楽しさを体験してもらいます。

5 アンケート結果

対象となった72校から100%の回答が得られまし

た。

(1) 学校で動物を飼育する目的は何だと思いますか?

情操教育 27%, 動物愛護の精神を養う 28%, 生活科学習のため 16%, 責任, 思いやりの指導 25%, 動物の生理, 生態を知る 3%, その他 1%, となっており, 学習面より子供達の心の教育のために, より重要であると考えられていることがうかがわれます。

(2) 学校で動物を飼うべきだと思いますか?

思うと答えた学校が 90% あり, そのうち 98% が獣医師の支援が必要と思っています。学校の先生だけでは対処しきれず, 獣医師の支援が強く求められていることがうかがえます。

(3) 学校で飼われている動物に触ることができますか?

92% の学校で, 飼っている動物に触ることが出来ると回答していますが, 実際には, 觸った経験のない先生がかなりいると思われます。獣医師会の問い合わせは, やさしく触れ合うことを意味したのですが, 先生方は指先で触れるだけと理解したようです。設問に不備があったことを反省しました。やさしく触れ合うことができますかと問えば, できると答える先生は現状ではかなり少ないと思われます。

(4) 飼育舎で飼われている動物を捕まえることができますか?

出来ると答えた学校が 90% ありました。今回訪問した飼育舎では, 中に入るとウサギは穴に逃げ込み, 鶏は隅の方にかたまる状態で, 獣医師会の意図したような素手で簡単に捕まえることの出来る学校は殆どありませんでした。動物を追い掛け回し, 手袋をはめて捕獲網で取り押さえていた学校も, できると回答しています。この設問についても不備を反省しましたが, 同時に動物を捕まえることについて, 学校の先生と獣医師の間に認識のズレがあると感じました。

(5) あなたの学校の飼育舎は動物にとって住み心地が良いと思いますか?

思っている学校は 71% であり, 思わない, またはわからないと答えた学校は約 30% でした。(狭い, 掃除が行き届かない, 日当たりが悪い等が主な理由で, これらは改善が可能) しかし, 学校の先生にきちんとした飼育方法を学習して貰えれば, 現在の飼育舎を良いとする回答はかなり減るのではないかと思われます。

(6) 獣医師の訪問指導を受けて良かったと思いますか?

99% の学校が受けて良かったと答え, その理由として, 飼い方が良くわかった(60%) 困った時に相談できるようになったことが安心(39%) などがあげられました。裏返せば, 今まで, きちんとした飼育方法もわからず, 困った時も誰にも相談で

きないまま放置されてきたということになります。

96% の学校が訪問指導の継続を望んでいます。

(7) ふれあい授業をやって良かったと思いますか?

93% の学校がやって良かったと答え, 97% が継続を望んでいます。どんな点が良かったかについては 42 枚から意見がよせられました。大別すると 4 つに分けられます。

①命の大切さを学べた。9 件

②動物の飼い方, 生態が良くわかった。13 件

③専門家による質の高い充実した授業ができた。

13 件

④子供にとって, とても良い体験ができた。15 件

他に獣医師による授業は是非続けて欲しいが, 多額の費用がかかるなら疑問。という意見が 1 件よせられました。また, 今回は 1 学年 1 クラスのみ実施したため, 全クラスに行って欲しいという要望は多方面から多く寄せられています。

6 考 察

今回のアンケート調査の結果, 9 割以上の学校で活動の継続を望んでいることがわかりました。飼育動物を通して命の大切さを教えることの重要性が再認識され, そのためには, 専門家の協力を得て, 正しい知識のもとで適切に飼育することが必要なだと理解され始めたことがうかがえます。しかし, 設問 4 と 5 でふれたように, 動物に触り, 捕まることについて, 先生と獣医師の認識に多少ずれのあることがわかりました。設問に不備があったことは反省しますが, 現在の飼育状況や自分たちの飼育方法に自信を持っている先生方に対し, 獣医師はかなり厳しい見方をしています。今後の活動の課題として検討していきたいと思います。

また, 今回のアンケートには反映されていませんが, 今冬の鳥インフルエンザ騒ぎでは, 担当する学校に対し的確な情報を提供し, 「素早く対応していただき安心できた」「父兄にきちんと説明できた」

「心強かった」といった感謝の言葉が多数寄せされました。全国的にも, この活動はどんどん広がっています。県獣医師会は今回のアンケート調査を参考にして, 厳しい財政の中で, 予算確保とその増額についての努力が必要不可欠であり, また, 日々の飼育活動においてさまざまな課題を乗り越え, これから活動を更に発展させていきたいと思います。

【別記 2】

平成 16 年度小学校小動物飼育指導担当教員研修事業について

○ 小口昌宏 矢部眞人 石飛雅代 伏見浩子
佐藤かおり 村井妙 鈴木昭宏 永沢稔 小澤浩 長谷川節子 飯塚豊

栃木県獣医師会は, 県教育委員会と連携して, 平成 11 年から各小学校に出向き, 小動物に対する理解